

水源地の環境・  
森林保全と  
原水及び浄水の水質

原 紀夫議員

水道水取水口上流に介在する町有林地他地権者等とは水源確保、汚濁防止の観点から協議は行われているか。

従前より懸念されている国道274号線通称長靴カーブ付近より水源地支流流入水の浄化についての改善要請は継続しているか。

小林川源流水は浄水せざるも飲料水として適合しているか水質検査すべきでないか。

また、クリプトスポリジウムや硝酸性窒素等の汚染について、本町の現状と対応策を伺う。

高薄町長

水源涵養林については、国  
有林は、事前協議を受けて平成16～18年の3か年伐採したが、営林署等と確認しながら土砂の流入防止

策、緑化対策を含めてやっている。市有林は、伐採しないことで協議している。私有林は、汚濁防止の観点から協力してもらえよう協議していきたい。

取水口は小林川支流に隣接する274号線の長靴カーブから約4・5キロメートル下流にあるが、原水浄水の水質には問題が生じていないため改善の予定はない。

飲料水として適合しているので供給しており、浄水場で沈殿・ろ過し、滅菌処理している。

クリプトスポリジウムは、沈殿・ろ過することによってほとんど除去され、今のところ問題のレベルではない。出たときの対応については、水質検査してその結果を確認し、取水停止も考えなければならぬ。



やる気の起きる  
職員の能力開発、  
人材育成

原 紀夫議員

清水町行財政改革推進計画では人事考課、自己申告制度、管理職登用試験、

希望降格制度の導入を掲げ、早い時期に制度化したいとしている。かなり年数が経過しているが進捗状況は。本町職員構成から見ると、30代、40代、40～50代の管理職職員数はほぼ同数で推移している。現行の

硬直化している人事から、試験制度等も取り入れるなど経験年数優先から汗した努力が報われる人事にすべきと思うが、加えて職員研修の実態についても伺う。

高薄町長

職員の能力開発と人材育成は、長期的に計画的な人事管理を行っていかなければならず、さまざまな制度を計画していく。導入・実施の具体的内容につ

いては、来年度から始まる第二次緊急3カ年計画の中で検討していく。職員研修については、グループ会議を頻繁に行っており、そのなかで専門性、資質の向上を図って、士気を高めている。

防災無線放送の  
有効活用

原 紀夫議員

一昨年から町安全生活推進委員会では、児童生徒を犯罪や交通事故から守るため、青色回転灯による巡回パトロールや監視活動を継続実施し、昨年から父兄等による「清水っ子見守り隊」も組織され活動している。これらの活動をより効果あらしめるため、下

校時に防災無線放送を活用しては。加えて、町広報紙のお知らせ版中の重要周知事項などにも活用してはいいかがか。

高薄町長

子供たちを町ぐるみで

守るということで、いろいろ対策を講じているが、毎日の下校時に防災無線放送は、騒音の問題が出ているので、非常に難しい状況になっている。

ペケレの森の  
整備

原 紀夫議員

森林浴、散策などの好期を迎えているが、木道散策路等は経年の腐朽により通行不能となっている。管理主体の土木現業所との施設維持、修理の協議はどのようになっているのか。

ポランテア等で木道の撤去をするなど再整備を図り、学校教育の生きた教材としても活用すべきでないか。

高薄町長

土木現業所との間で管理を町に引き渡したいとの話はあるか伺う。

中で、大きい箇所については、5月2日に一部通行止めしている。平成17年には健康クラブの皆さんの協力により、土木現業所と町の三者で修理を行っている。管理を町に引き渡す話は聞いていない。



破損のため一部通行不可能になっているペケレの森の木道散策路

職員の  
地域担当配置

原 紀夫議員

町職員と町民間の信頼関係は必ずしも良好とはいえない。財政危機状況の今ほど、より緊密で理解し合える関係構築が望まれる。行政と地域のパイプ役